

『時事直言』 No.1409 2020年7月31日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[twitter 日本語] [t_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019)

[twitter 英語] [T_Masuda_eng/](https://twitter.com/T_Masuda_eng)

[instagram] [t_masuda2019/](https://www.instagram.com/t_masuda2019/)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/



時事評論家 増田俊男

米中戦争は歴史の流れ

人間は谷から大海へ流れる水を止めることは出来ない。

第一、第二次大戦の前にアメリカはモンロー主義(孤立主義)に徹し、敵(日本)に先制攻撃(真珠湾攻撃)をさせてから参戦してきた。

今アメリカは欧州同盟国との関係を悪化させ故意に孤立化を計り、一方対中敵視政策をエスカレートさせながら国交断絶に向かっている。

対中関税を強化して在中米企業の本国帰還を促進し、中国との依存関係を断とうとしている。

歴史的に見て、まるで絵に描いたような対中戦争準備である。

誰もが米中交戦はあり得ないと信じている。

米中交戦否定論者は、もし核保有国同士の米中が交戦すれば双方とも国家存亡の危機に陥るからあり得ないと言う。

米中は何も自国本土で戦争をするつもりはない。

第二次大戦でアメリカは戦勝国であったが米本土は無傷であった。

今(イスラエルではなく)アメリカはイランに対して(イスラエルに見せかけた)軍事挑発を繰り返している。

中国に支援されるイランは、犯人はイスラエルではないことを知りながら、アメリカの代理人であるイスラエルに報復をせざるを得なくなっている。

中東を舞台に丁度ベトナム戦争のような事態が準備されているのである。

イスラエルとイランを戦争に仕向けながら米軍は中東から撤退する。

シリアの内戦の結果シリアがイランとロシアの支配下になったように、イランとイスラエルの戦争は、たとえイスラエルが勝ってもイスラエルは国力を落とし、中東の小国に成り下がるだろう。

トランプのまるで対中宣戦布告のような行動は、中国の経済と軍事をアメリカ無しで自律させる為であり、1972年2月にニクソン大統領とキッシンジャーが毛沢東と周恩来に約束した通り、アジアの経済、軍事覇権を中国に渡す為の準備でしかない。

新しい世界秩序の前に一波乱がある！

戦争なくして新時代無し！

増田俊男の「インターネット国際政経塾」の「夏季短期集中講座(計400分)」(8月3日スタート)で世界情勢の流れをしっかり掴んで下さい。

★小冊子 Vol.117 は本日より発送開始致します。

増田俊男の「ここ一番！」大好評配信中！

現在、増田俊男の「ここ一番！」を FAX 又は e-mail にて配信しております。詳しいご案内、お申込みについてはマスダ U.S.リサーチジャパン(株)Tel: 03-3956-8888、HP: www.chokugen.com まで。

【最近の配信履歴】

- 07月28日(火) No. 990 二番底は9月！
- 07月15日(水) No. 989 ローソク最後の輝き
- 07月10日(金) No. 988 管制相場の材料出尽くし
- 07月06日(月) No. 987 ドル・円相場の行方

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスダ U.S.リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313) までお知らせ下さい。